

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-217639

(43)公開日 平成8年(1996)8月27日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K	7/025		A 6 1 K	7/025
	7/00			7/00
				B
				K

審査請求 未請求 請求項の数3 F D (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平7-53456

(22)出願日 平成7年(1995)2月17日

(71)出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72)発明者 石川 浩

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
式会社資生堂第一リサーチセンター内

(54)【発明の名称】 口唇用化粧料

(57)【要約】

【目的】 自然に仕上がり、匂いがよく、なめらかなのび、しっとり感などの使用性に優れ、経時での口唇用化粧料のにじみが少なく、且つ口唇のくすみを防ぐ口唇用化粧料を得ることを目的とする。

【構成】 合成雲母粉体とI. O. B. 値が0を超えて0.2未満の液状油分とを配合したことを特徴とする口唇用化粧料。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 合成雲母粉体とI. O. B. 値が0を超えて0.2未満の液状油分とを配合したことを特徴とする口唇用化粧料。

【請求項2】 合成雲母が合成フッ素金雲母である請求項1記載の口唇用化粧料。

【請求項3】 I. O. B. 値が0を超えて0.2未満の液状油分がマカデミアナッツ油である請求項1乃至請求項2記載の口唇用化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、自然に仕上がり、匂いがよく、なめらかなのび、しっとり感などの使用性に優れ、経時での口唇用化粧料のにじみが少なく、且つ口唇のくすみを防ぐ口唇用化粧料に関するものである。

【0002】

【従来の技術】口唇用化粧料は通常スティック状で、固形油分及び半固形油分、液状油分及び着色剤とから構成されている。口唇用化粧料の内下地用のリップベースには外観色を与える少量の着色剤、口紅には約1～20%重量の着色剤が配合され、この処方範囲内で適宜配合量を代える事により目的のものを得ている。

【0003】ところが、これらの油分と着色剤を組合わせて適当な使用性に調整した口紅は、唇に塗布後、経時と共ににじみが出てきて口紅の輪郭を不鮮明にして汚くするという問題点があった。また、年齢とともに口唇の色がくすんでくる傾向があり、口紅を塗布しても、思った通りの美しい発色が得にくい場合があるという問題点があった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明者は、上記事情に鑑み経時でにじんで口紅の輪郭を不鮮明にすることなく、かつ年齢とともにくすんでくる唇に塗布して美しい色がでる口唇用化粧料を得るべく鋭意研究を重ねた結果、従来使用されていた体質顔料に代えて合成雲母粉体と低極性液状油を配合することによりこの課題を解決し得ることを見だし、本発明を完成するに至った。

【0005】

【課題を解決するための手段】即ち、本発明は合成雲母粉体とI. O. B. 値が0を超えて0.2未満の液状油分とを配合したことを特徴とする口唇用化粧料である。

【0006】以下、本発明を詳細に説明する。本発明に用いられる合成雲母とは、熔融法、水熱法若しくは、固体間反応法によって得られるフィロケイ酸塩鉱物であり、良質の結晶の合成雲母粉体は、カリウム、ナトリウム、マグネシウム、アルミニウム、ケイ素、フッ素等を含有する化合物を一定の割合で混合し、これを熔融、晶出、冷却後、機械的粉碎を行うことにより得られる。一般的には、例えば合成フッ素金雲母の場合、無水ケイ酸約40部、酸化マグネシウム約30部、酸化アルミニウム約

13部及びケイフッ化カリウム約17部を混合した後、1,400～1,500℃で熔融し、さらに1,300～1,400℃で晶出し、合成フッ素金雲母KMg₃(AlSi₃O₁₀)F₂を得る。本発明の化粧料には、得られた鉱塊を粉碎、必要であれば分級して合成雲母粉体として配合される。なお、フッ素の溶出を改良するために、合成雲母を例えば600～1,350℃で熱処理することによりFのモル数を化学量論の2モルの75～99%にした合成雲母も本発明の範囲に含まれる。合成雲母には、合成白雲母、合成金雲母、合成黒雲母等があり、本発明ではこれらの合成雲母粉体を1種または2種以上が配合される。

【0007】合成雲母は、一般式で表せば以下のようになる。

$X_{1/3} \sim Y_2 \sim Z_4 O_{10} F_{1.5} \sim 2$

(式中、XはNa⁺、K⁺、Li⁺、Ca²⁺、Rb²⁺、Sr²⁺からなる群より選ばれる1種以上のイオンを表し、YはMg²⁺、Fe²⁺、Ni²⁺、Mn²⁺、Al³⁺、Fe³⁺、Li⁺からなる群より選ばれる1種以上のイオンを表し、ZはAl³⁺、Si⁴⁺、Ge⁴⁺、Fe³⁺、B³⁺からなる群より選ばれる1種以上のイオンを表す。)

【0008】合成雲母の具体的な例としては、次のようなものが挙げられる。

KMg₃(AlSi₃O₁₀)F₂ カリウム金雲母

KMg_{2.5}(Si₄O₁₀)F₂ カリウム4ケイ素雲母

NaMg₃(AlSi₃O₁₀)F₂ ナトリウム金雲母

KMg₂Li(Si₄O₁₀)F₂ カリウムテニオライト

NaMg_{2.5}(Si₄O₁₀)F₂ ナトリウム4ケイ素雲母

K_{2/3}Mg₂1/3Li_{2/3}(Si₄O₁₀)F₂

Na_{1/3}Mg₂2/3Li_{1/3}(Si₄O₁₀)F₂ ナトリウムヘクトライト

【0009】好ましい合成雲母は、使用性、にじみ防止、くすみ補正等の効果の点から合成金雲母であり、中でも合成フッ素金雲母KMg₃(AlSi₃O₁₀)F₂が好ましく、市販品としてトピー工業製のマイカST(HS)が挙げられる。本発明の合成雲母粉体の口唇用化粧料への配合量は、口唇用化粧料全量中5～50重量%が好ましく、さらに好ましくは10～30重量%である。5重量%未満では、にじみ防止の効果が充分ではなく、50重量%を超えると使用性が悪くなる。本発明の合成雲母粉体は、化粧料に配合されるに当たって必要に応じて、シリコーン処理、フッ素処理、金属石鹸処理、エステル処理、脂肪酸処理、界面活性剤処理、或いは酸、アルカリ、無機酸類による処理、更にはこれらの複合処理を行った後配合させても良い。

【0010】本発明に用いられる液状油分は、I. O. B. 値が0を超えて0.2未満の低極性の油分である。好ましくは、I. O. B. 値が0.01～0.19の油分であり、さらに好ましくは、0.07～0.18であ

る。ここで、I. O. B. とは当該業者が周知の藤田穆“有機性：無機性値による有機概念”で有機化合物の化学構造から非化学結合分子間力を非極性：極性という二つの値として求めた値である。本発明では、これらの油分の1種または2種以上が配合される。I. O. B. 値約0.4のヒマシ油はにじみ防止の効果がなく、またI. O. B. 値0の流動パラフィンでも、にじみ防止効果が充分ではない。I. O. B. 値が0を超えて0.2未満の液状油の例としては、マカデミアナッツ油（I. O. B. = 0.175）、オリーブ油（I. O. B. = 0.165）、グリセリルトリイソステアレート（I. O. B. = 0.16）、ホホバ油（I. O. B. = 0.078）等があるが、効果の点からはマカデミアナッツ油が最も良い。I. O. B. 値が0を超えて0.2未満の液状油の配合量は口唇化粧料中5～50重量%、好ましくは10～30重量%である。

【0011】本発明の口唇化粧料には上記した必須の油分の他に、固形油分、半固形油分、本発明以外の液状油分が本発明の効果を損なわない範囲で配合出来る。これらの油分の例としては、固形パラフィン、マイクロクリスタリンワックス、セレシン、キャンデリラロウ、カルナウバロウ、モクロウ、ワセリン、硬化ヒマシ油、ミツロウ、鯨ロウ、ラノリン等の固形、半固形油分、ヒマシ油、サフラワー油、大豆油、茶実油等の植物油、流動パラフィン、スクワレン等の炭化水素油、ミリスチン酸イソプロピル、オクタン酸セチル、ミリスチン酸オクチルドデシル、パルミチン酸イソプロピル、ステアリン酸ブチル、12-ヒドロキシステアリン酸コレステリル、ジ-2-エチルヘキサノール酸エチレングリコール、ジペンタエリスリトール脂肪酸エステル、リンゴ酸ジイソステアリル、ジ-2-ヘプチルウンデカン酸グリセライド、トリ-2-エチルヘキサノール酸トリメチロールプロパン、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、テトラ-2-エチルヘキサノール酸ペンタエリスリトール、トリ-2-エチルヘキサノール酸グリセリル、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、セチル2-エチルヘキサノエート、トリ-2-ヘプチルウンデカン酸グリセリル、セトステアリルアルコール、パルミチン酸2-ヘプチルウンデカン酸グリセリル、セトステアリルアルコール、パルミチン酸2-ヘプチルウンデシル、N-ラウロイル-L-グルタミン酸-2-オクチルドデシルエステル等のエステル油分などの液状油分が挙げられる。本発

明においては、さらに着色剤、保湿剤、香料、酸化防止剤、紫外線吸収剤、水等通常化粧料に用いられる原料が、本発明の効果を損なわない範囲で配合出来る。本発明の口唇化粧料として下地用のリップベース、口紅があげられる。

【0012】

【実施例】以下、本発明の好適な実施例を説明する。本発明はこれらにより限定されるものではない。なお、配合量はすべて重量%である。

【0013】口唇化粧料の性能は、専門パネル20名による実使用テストにより官能評価を行った。評価結果を下記の記号によって示した。

◎：20名中、16名以上が良好と判定した

○：20名中、12名以上、16名未満が良好と判定した

△：20名中、8名以上、12名未満が良好と判定した

×：20名中、8名未満が良好と判定した

【0014】実施例1：リップベース

(1) ポリエチレンワックス	5.0
(2) セレシン	5.0
(3) カルナウバロウ	7.0
(4) グリセリルトリイソステアレート	39.0
(5) マカデミアナッツ油	20.0
(6) 合成金雲母粉体 *1	20.0
(7) 赤色酸化鉄	2.0
(8) 黄色酸化鉄	2.0

*1：KMg3 (AlSi3O10) F2 [トピー工業製マイカST (HS)]

【0015】<製造法>液状油分中に固形油分を加え、90～100℃にて加熱溶解した後、合成金雲母と予め液状油分の一部で練った着色剤（黄色酸化鉄、赤色酸化鉄）、香料を加えて良く攪拌分散した後、口紅容器に流し込み冷却して本発明のリップベースを得た。

【0016】<評価結果> 匂い◎、使用感◎、にじみ防止◎、くすみ補正◎

上記から明らかなように、本発明のリップベース；実施例-1は非常に優れたものであることがわかる。次に更に実施例と比較例を挙げて本発明の効果について述べる。

【0017】

【表1】

リップベース

原料名	実施例 2	実施例 3	実施例 4	実施例 5	実施例 6
ポリエチレンワックス	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
セレシンワックス	5.0	7.0	5.0	5.0	5.0
カルナウバロウ	7.0	7.0	5.0	7.0	7.0

グリセリルトリ 2-エチルヘキサノエート	29.0	52.0	21.0	49.0	39.0
マカデミアナツオイル	20.0	20.0	40.0	10.0	30.0
合成金雲母粉体 * 1	30.0	5.0	20.0	20.0	10.0
赤色酸化鉄	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
黄色酸化鉄	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
匂い	◎	◎	◎	◎	◎
使用感	◎	◎	◎	◎	◎
にじみ防止	◎	○	○	◎	◎
くすみ補正	◎	○	◎	◎	◎

【0018】

【表2】

リップベース

原料名	比較例 1	比較例 2	比較例 3	比較例 4	実施例 7
ポリエチレンワックス	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
セレシンワックス	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
カルナウバロウ	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0
グリセリルトリ 2-エチルヘキサノエート	39.0	39.0	39.0	39.0	56.0
マカデミアナツオイル			20.0	20.0	20.0
液状ラノリン	20.0				
流動パラフィン		20.0			
合成金雲母粉体 * 1	20.0	20.0			3.0
天然白雲母			20.0		
二酸化チタン				20.0	
赤色酸化鉄	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
黄色酸化鉄	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
匂い	△	○	×	△	◎
使用感	×	○	○	×	◎
にじみ防止	×	×	○	○	△
くすみ補正	◎	◎	×	×	○

【0019】

【表3】

口紅

原料名	実施例 8	実施例 9	実施例 10	実施例 11	実施例 12
ポリエチレンワックス	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
セレシンワックス	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
カルナウバロウ	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0
グリセリルトリ 2-エチルヘキサノエート	32.78	22.78	52.78	32.78	22.78
マカデミアナツオイル	20.0	20.0	10.0	30.0	30.0
合成金雲母粉体 * 1	20.0	30.0	10.0	10.0	20.0
二酸化チタン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
赤色酸化鉄	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
黄色酸化鉄	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

黒色酸化鉄	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
赤色202号	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
赤色204号	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5
香料	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
なめらかなのび	◎	◎	◎	◎	◎
しっとり感	◎	◎	◎	◎	◎
にじみ防止	◎	◎	◎	◎	◎
鮮やかさ	◎	◎	◎	◎	◎

【0020】

【表4】

口紅

原料名	実施例 13	実施例 14	実施例 15	実施例 16	実施例 17
ポリエチレンワックス	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
セリンワックス	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
カルナウバロウ	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0
グリセリトリ 2-エチルヘキソエート	32.78	22.78	52.78	32.78	22.78
カデミナツオイル					15.0
オリーブ油	20.0			15.0	10.0
グリセリトリイソステアレート		20.0		15.0	
ホホバ油			10.0		5.0
合成雲母粉体 *1					15.0
合成雲母粉体 *2	20.0		10.0		5.0
合成雲母粉体 *3		30.0		10.0	
二酸化チタン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
赤色酸化鉄	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
黄色酸化鉄	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
黒色酸化鉄	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
赤色202号	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
赤色204号	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5
香料	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
なめらかなのび	◎	◎	◎	◎	◎
しっとり感	◎	◎	◎	◎	◎
にじみ防止	○	○	○	○	◎
鮮やかさ	◎	◎	◎	◎	◎

*2 : K M g 2.5 (S i 4 O 10) F 2 カリウム4ケイ素雲母

*3 : N a M g 3 (A l S i 3 O 10) F 2 ナトリウム金雲母

【0021】

【発明の効果】以上説明したように本発明にかかる口唇用化粧料によれば、合成雲母粉体と I . O . B . 値が 0 を超えて 0 . 2 未満の液状油分を用いたので、自然に仕

上がり、匂いがよく、なめらかなのび、しっとり感などの使用性に優れ、経時での口唇用化粧料のにじみが少なく、且つ口唇のくすみを防ぐ口唇用化粧料を得ることができる。